

## L19b 2002年ふたご座流星群による流星痕観測の成果と、しし座流星群による流星痕観測との方法の差異

比嘉義裕(日本流星研究会)、戸田雅之(日本流星研究会)、山本真行(通信総合研究所)、藤田充宏(東北大・理)、鈴木智(日本流星研究会)

流星痕同時観測(METRO)キャンペーンでは、1998年より5年間にわたり、しし座流星群の流星痕観測を実施しており、特に流星雨となった2001年しし座流星群を中心に毎年多くの成果をあげてきた(戸田 他、2003年春季年会)。2000年からは主要流星群にもキャンペーン観測を実施してきたが、しし座流星群以外の流星群におけるこれまでの流星痕観測例はあまり多くない。今回、定常群の中でもここ数年明るい流星の報告が多いふたご座流星群に焦点を絞った観測を実施したので報告する。

今回は、METRO キャンペーン参加者により、2002年ふたご座流星群の延べ4日間において20余名から45例の火球・準火球の情報とそれに伴う流星痕の観測記録が寄せられた。

ところで、しし座流星群は対地速度が速いため有痕率が高く、その継続時間も比較的長いので、流星痕の撮影例が多く得られ、撮影条件の吟味が可能であった。しし座流星群による流星痕の観測方法については、すでに多くの検討の結果から確立されたといえる。一方、しし座流星群以外の流星による流星痕の観測例は、年に数例あるかないかという状況であり撮影条件は確立できていない。これまでの観測結果からは、肉眼で痕が確認できないに関わらず準火球クラス以上の流星軌跡にカメラを向け撮影することで流星痕を捉えることに成功しており、2002年ふたご座流星群においても成果を得た。我々は、この撮影方法などから、しし座流星群以外の流星による流星痕の観測方法について検討した。